

## 文科省のガイドラインに沿った 「3つのポリシー」を策定

〈特集〉

本学の学生サポート  
研究室訪問

キャンパス情報／学科TOPICS／Office information



学生サービス棟1階 教務課・学生課カウンター、掲示板の様子

# 文科省のガイドラインに沿った「3つのポリシー」を策定

2017年3月末、神奈川工科大学では大学独自の教育目標となる「3つのポリシー」を発表しました。これは文部科学省が2016年3月に公布した学校教育法施行規則の一部を改正する省令に対応したもので、そのガイドラインに沿って「自らの教育理念の実現に向けて、どのような学生を受け入れ、求める能力をどのようなプログラムを通じて育成するか」を明確にしたものです。大学の教育目的のより実際的な具現化につながり、大学にとってだけでなく、受験生や保護者、高校にとっても大きなメリットが期待できるとされています。本学でこれまで掲げてきた教育目的を起点とし、学部、大学院の全学教職員参加のもと、ほぼ1年かけて策定した経緯や今後の運用について、教育開発センター所長の井上哲理教授(情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科)に話を伺いました。

## 大学教育に求められる変化が「3つのポリシー」策定の根幹に

「3つのポリシー」は、文部科学省によって「全ての大学等において、3つの方針を一貫性あるものとして策定し、公表する」よう公布された省令のガイドラインに沿って策定したものです。各大学の建学の理念や強み・特色等を踏まえ、自主的・自律的に策定する「3つのポリシー」とは次のものです。

- ①卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー:DP)
- ②教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー:CP)
- ③入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー:AP)



策定ガイドラインでは、「すでに3つのポリシーを策定した大学もあるが、抽象的で形式的な記述にとどまり、相互の関連性が意識されていないものも多い」

「高等学校教育の変容を受けて、大学教育にも変革が求められる」など指摘され、それに伴う3つのポリシーを適切に策定するよう促されていました。

井上教授は「今回、「高大接続」も強く求められていました。ポリシーの策定では『学力の三要素』を意識することなど、高校のカリキュラムや教育方法の変容に伴い、そこで学んだ高校生を受け入れる大学側にも変化が求められていたのです。」と話します。

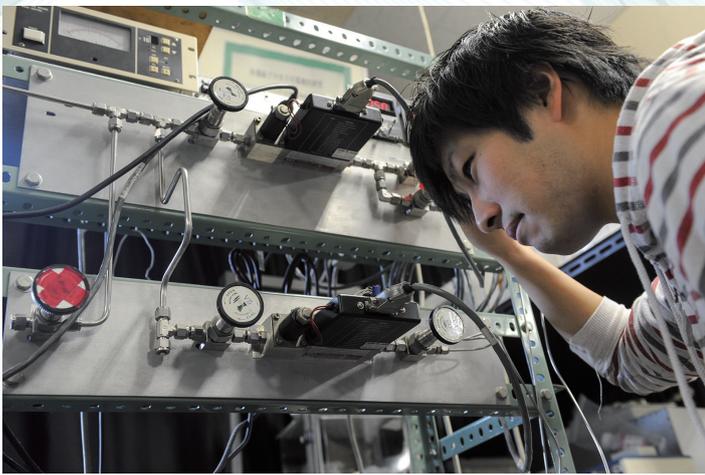
## 「3つのポリシー」策定の基本方針は「社会で活躍できる人づくり」を起点に

「3つのポリシー」は、策定ガイドラインに沿って策定されたものです。井上教授は「確かに省令に沿った面は強いですが、それ以

前から本学では教育体系の見直しを行い、その中で「3つのポリシー」を一度策定していました。」と話します。「今の学生に求められる力として、専門知識・技能の習得を支える基礎学力、答えのない課題が増える中での創造力、多様性を認めて、国際社会で活躍できるグローバルな視野などが挙げられます。これらを意識したカリキュラムに変えていこうと、本学では平成23年度から全学共通基盤教育の導入やプロジェクト型授業の推進を図り、本学独自の教育改革を行ってきました。今回の「3つのポリシー」策定では、この時の考えが活かされています。」

「本学のこれまでの「3つのポリシー」には、大学全体のポリシーが明確でなく、各ポリシー間の一貫性も弱いなどの課題がありました。今回、文科省のガイドラインに沿って、入学から卒業まで一貫したポリシーの策定が求められたことで、本学の教育目的である『考え、行動する人材の育成—社会で活躍できる人づくり—』を起点に、学部と大学院の「3つのポリシー」を再構築しました。それと同時に、各学科や各専攻がそれぞれ掲げてきた教育目的も「3つのポリシー」との整合性に配慮しながら、見直しを図りました。こうした取り組みによって、教育目的や教育体系が一層明確になり、また、教職員による教育方針の共有化が進んだと考えています。」





## 教育目的との一貫性に配慮した「3つのポリシー」の策定内容

①のDPでは、卒業までに獲得して欲しい能力として、「創造的思考力」「チームワーク」「基礎学力」の3つを挙げています。「創造的思考力とは、課題解決のための計画力や実行力に加えて、新たな問題を発見して新しい価値を自ら創造できる能力です。チームワークは、多様な人と目標に向けて協力しながら課題解決や創造的仕事をする際に必要な能力で、具体的にはコミュニケーション力、状況把握力、社会的倫理観などです。また、基礎学力とは、専門分野の基礎知識・技能はもちろんですが、職業人の素養なども重視しています。」

②のCPでは、まず大学全体の教育方針として、(1)基礎力育成を重視した教育、(2)共通基盤教育と専門教育、(3)学力にあった教育、(4)創造性を育む能動・体験型教育、(5)得意分野を伸ばす個人指導を挙げました。これは従来からの教育方針や平成23年度からの新カリキュラムの方針をまとめたものです。この教育方針に沿って、各学科のCPでは、学科のDPに挙げた能力をどのような科目群、授業内容、評価方法で育成していくか、その基本方針を述べています。

さらに③のAPでは、入学生に求める能力と入学選抜の基本方針を述べています。

「3つのポリシー」ですが、APを満たす学生が、CPに挙げた方針に沿った教育を受けて、DPに挙げた能力を身につけて卒業して行く、という関係にあります。

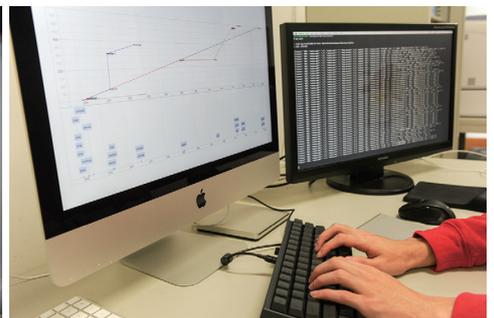
今回、「3つのポリシー」は、大学全体に加えて、学部・学科や大学院の専攻ごとにも策定しました。「まずは大学(大学院)全体における「3つのポリシー」を策定し、それをベースに学部・学科や専

攻の「3つのポリシー」を策定するという順番で作業を進めて、すべての教育目的とポリシーが、統一感を持つようになっています。」

## 策定後の運用についてはその成果を評価する基準を検討中

「3つのポリシー」の運用については、「本学では、平成23年度からの教育改革で、今回のDPにあげた創造的思考力、チームワーク、基礎学力を重視したカリキュラムをスタートさせています。また、学科独自の授業の工夫も進んできています。ただし、今回の「3つのポリシー」を十分に満足できる教育内容の点では、まだまだ課題が多いのが実情です。今後も「3つのポリシー」に沿って教育内容の見直しを行っていきます。」と井上教授は話します。

さらに、「ポリシーの評価も重要になってきます。例えば、学生は創造的思考力をしっかり身につけたのか、ということ適切に評価する必要があります。従来の科目の合否ではなく、創造力、課題解決力、計画力、実行力などについての詳細な評価です。評価の結果、もし計画力が弱い学生が多いようであれば、その力をつける授業を増やすなど、教育改善につなげていく仕組みをつくることも大事です。」と井上教授は指摘します。「また、今回策定した「3つのポリシー」そのものが適切なのかを評価することも必要です。本学として、社会で活躍できる人材に必要な能力をDPに挙げたわけですが、本当に活躍できているかの評価はぜひとも実施したいと思います。そのためには、卒業生の就職先企業に卒業生の仕事ぶりなどを評価してもらうことも考えています。このような評価と改善を常に行うことが、よりよい教育実践、そして本学の教育目的の達成につながると考えています。」



# 本学の学生サポート

充実した学生生活を送るために、神奈川工科大学ではさまざまなサポートがあります。

## 学生課 学生生活を支え、明日へと導く

学生課では、学生の皆さんが充実した学生生活を送れるようさまざまな支援を行っています。

### (主な支援業務項目)

#### ◆学生生活(食・住・通学・健康)支援

食:学生食堂運営企画・管理

住:KAIT ERIM管理運営・指定寮、アパート紹介

通学:急行バス・シャトルバス運行調整、車・自動二輪・自転車駐車場・駐輪場管理、安全運転研修企画

健康:学生相談室・健康管理室運営、定期健康診断、インフルエンザ予防接種実施

#### ◆経済的支援(奨学金関連・アルバイト紹介・合宿旅行費用補助)

#### ◆障害学生支援

#### ◆課外活動(クラブ・サークル・ボランティア)支援

#### ◆事件・事故対応相談(よろず相談所運営)

#### ◆その他

ブックセンター・マクドナルド営業調整、スポーツ施設管理、幾徳会館・KAITホール管理、その他

## <学生相談室>

学生相談室では、臨床心理士の資格を持つカウンセラーが学生の皆さんのさまざまな悩みについて相談に応じています。保護者の皆さまからのご相談にも対応していますのでお気軽にご相談ください。秘密は守ります。また、必要に応じて、教職員や外部専門機関とも連携してサポートしています。フリースペースや仲間づくりのための集い「ゆるカフェ」のみの利用もできます。「ゆるカフェ」は毎週水曜日に開催しております、詳細はお問い合わせください。

#### ◆相談内容

人間関係、身体や気持ち、学業、進路、性格など

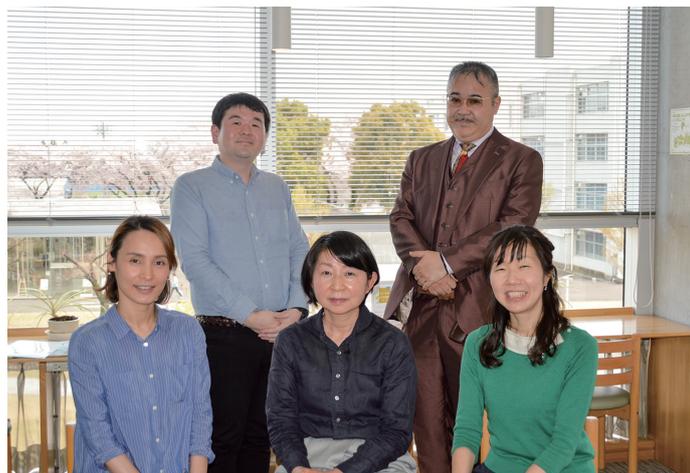
#### ◆開室時間・連絡先

月曜～金曜(9:00～17:00)※受付は16:50まで

TEL:046-291-3038 Eメール:sodan@kait.jp (返信には数日かかる場合があります。)

#### ◆カウンセラー

臨床心理士4名/メンタルヘルス・アドバイザー1名(精神保健指定医:水曜日入室)



## <健康管理室>

キャンパス内でケガや病気になったときの応急処置や、健康相談を行っています。症状によっては外部医療機関を紹介しています。また、学校医による健康相談や、医療機関への受診相談なども対応しています。



#### ◆健康管理室対応時間 月曜～土曜 9時～16時30分

TEL:046-291-3037 Eメール:Kenkou@kait.jp

#### ◆校医による健康相談 毎週金曜 13時30分～15時30分

看護師による健康相談も行っています。\*電話・メールでの対応もできます。

## 「奨学金」について

### 「日本学生支援機構奨学金」

本学でも多くの学生が利用している奨学金です。春の定期採用は終了していますが、「追加募集」がある場合は、学生課前の奨学金掲示板でお知らせしています。なお、家計の急変等の事由により奨学金が必要になった場合に対応する制度が日本学生支援機構奨学金にあります。採用条件等は学生課に問い合わせてください。

#### ○緊急採用(第一種奨学金) ○緊急採用(第二種奨学金)

#### (適格認定について)

※在学中継続して奨学金を受けるためには、審査(適格認定)を受け認定されなくてはなりません。学業成績も厳しく審査されます。

#### (審査項目)

「人物について」生活全般を通じて態度・行動が奨学生にふさわしく、奨学金の貸与には返還義務が伴うことを自覚し、かつ、将来良識ある社会人として活躍できる見込があること。

「健康について」今後とも引き続き修学に耐えうるものと認められること。

「学業について」修業年限で確実に卒業又は修了できる見込があること。

「経済状況について」修学を継続するため、引き続き奨学金の貸与が必要であると認められること。



## 父母説明会・個別相談会開催について

平成29年度父母説明会・個別相談会は、以下の日程で開催します。なお、案内状の発送は8月中旬を予定しています。

(開催日・開催場所)平成29年9月23日(土)・神奈川工科大学

# キャリア就職課 満足度の高い就職活動の実現に向けて

希望の進路へ着実に進んでいけるよう、学生の就職活動をサポートするのがキャリア就職課です。キャリア就職課職員、キャリアアドバイザー、学科就職事務室は、日々就職に関する質問や、相談に対応しています。

2017年3月卒業生の本学の就職率は98.0%、また進路決定率(卒業生全員に対する就職決定および進学決定)は93.0%でした。

現在、2018年春卒業生の就職活動が本格化しており、報道されている通り、昨年度同様、選考開始時期は6月スタートとなりました。しかしながら、多くの企業では6月よりも以前に選考が開始されている状況であり、更に今年は昨年よりも半月から一ヶ月程早く推移している状況です。6月中旬以降は採用の第2クールとなります。学生の一人ひとりと向き合い、相談に対応しながら就職支援を行ってまいります。

## 本学主催の「合同企業説明会」を開催

本学卒業生が活躍している企業を中心に、大手企業から中堅企業まで優良企業が参加する「合同企業説明会」を開催しています。2016年度の説明会には、延べ1,113社(個別企業説明会含む)の企業に参加いただきました。

「質」「量」ともに充実した説明会で、結果として、2016年度は、全内定者の41.3%の学生が合同企業説明会参加企業に就職が決定しました。今年度は6月までに合同企業説明会を全4回実施し、1,013社の企業に参加いただいております。



## 保護者の皆様へ

### ● 就職活動の現状をご理解いただくために

経団連は大学生の就職活動日程について、会社説明会を3月、面接などの採用選考活動を6月に解禁すると発表しつつも、6月以前の各メディアの報道にある通り、3人に1人は内定を獲得しているのが現状で、本学でも6月1日時点、3割を超える内定状況となっております。結果が出た人、まだ思うように進んでいない人と就職活動の状況はさまざまですが、中盤戦に入るにあたって、ここまでの就職活動の内容について一度振り返り、仕切り直しを行うフォローアップ講座を実施するなど、引き続き就職希望者一人ひとりを支援してまいります。

2019年春卒業予定の現3年生については、今年度と同様の採用スケジュールであることは既に発表されている通りです。3月の会社説明会解禁前にインターンシップを1日だけ行い、事実上の会社説明会とする企業が増えており、これを受け夏休み中にインターンシップに参加を考えている人も多いようです。業界研究などは早期から取り組み、本学主催の就活セミナーへ参加し、就職活動に備えていただきたいと思います。

### ● 家庭の中で「就業観を養う時間」を

ご家庭の中では「働く」ということを伝える場にしていただくなど、就業観を養う時間を作ってほしいと思います。仕事からの帰宅後、「疲れた」などの愚痴ばかりでは働くことへの希望は少なくなってしまいます。仕事への使命感や責任感、働くご本人の口から、生の声で聞いて感じ、学ぶことが大切です。また進路を決定する時に親の社会人としてのアドバイスは欠かせません。子どもの主体性を大切にしながらコミュニケーションをしっかりとっていただき、親にしかできない、親だからこそできる精神的サポート、金銭的サポートなど、ご支援いただけますようお願いいたします。

## 医療系学科の就職支援について

5月22日(土)、看護学部看護学科の学生を対象とした「第1回合同病院説明会」を実施しました。臨地実習の受入れにご協力をいただいている13病院に参加いただき、3年生から1年生までの、81名の学生が参加しました。看護学科1期生は3年生となり、就職活動を来年に控え、病院研究とともに具体的な仕事内容の理解など、進路を考える機会としました。2年生、1年生は今後の臨地実習について、事前の病院研究を行っていました。

各病院とも夏休みを利用したインターンシップを行っています。ぜひ参加して進路研究に活かしてください。

また、工学部臨床工学科の就職支援につきましては、9月以降、キャリア就職課および臨床工学科キャリア就職委員による病院訪問を行い、求人依頼を予定しております。



看護学科対象「第一回合同病院説明会」

## キャリアアドバイザーを活用しよう!

面接や応募書類の対策をキャリアアドバイザーが相談に対応しています。また、3年生のインターンシップ対策にも対応しています。事前予約制で個別対応なのでしっかりと相談できます。

### <相談内容>

- ・就職活動の進め方
- ・業界研究や企業研究の仕方
- ・応募書類対策
- ・採用試験(面接)対策

### <予約方法>

大学ホームページ「就職・キャリア総合サイト KAIT Career」の【学内生ページ】キャリアアドバイザー面談予約フォームから、志望業界や志望企業、相談内容等を入力してください。



## 教務課 授業・履修～学びのサポート～

大学では、高校までとは大きく異なり、「主体的な学び」=自分で科目を選択し、時間割を組み立てて1週間のスケジュールをつくり、サークルやアルバイト、ボランティアや海外留学など自分の判断で計画することができます。授業形態はまさにさまざま。高校時代のように先生の話聞く講義形式、自らが体験する実習・実験、さらには少人数で行うゼミナール(演習)という大学ならではの授業もあります。「学びたいことを思いきり学べる」これが大学で学ぶことの何よりの魅力ではないでしょうか。ただし、良いことづくめではありません。卒業に必要な単位数が決まられていて、3年次終了時点で卒業研究着手要件を充足していない場合は残念ながら留年が決まってしまう。そのため、各学年での修得目標単位数を1年次40単位、2年次40単位、3年次30～40単位に設定し指導しています。さらに、事前・事後学習の時間を確保するために「CAP制度」を導入し、履修単位数の上限を設けて単位の実質化も図っています。

また、保護者の方は「保護者ポータルサイト」から学生の掲示板(連絡内容)・授業時間割・出席情報・出席率・試験日程情報を把握することができ、学生・保護者・大学が三位一体で学修状況をリアルタイムで共有しています。



# 研究室 訪問

Laboratory visit

高度な専門技術者・研究者の養成をめざす神奈川工科大学大学院では、現在162名の大学院生(博士前期課程145名、博士後期課程17名\*4月現在)が在籍し、各分野の研究に取り組んでいます。

実験や検証に粘り強く取り組み、その結果から導き出した成果を携えて国内外の学会などで発表していく。物怖じせずに進んでいく姿からは、次世代を担う“若き研究者”としての誇りと頼もしさが感じられます。

本学大学院生は、どのような研究に取り組み、どのように社会に貢献したいと考えているのでしょうか？各専攻から大学院生の「研究する姿」をシリーズでお伝えしていきます。



## 基地局を用いない次世代ネットワークに関する研究

榎原 裕一郎さん

大学院情報工学専攻博士前期課程2年(塩川研究室)

### Q 研究内容について教えてください

無線通信分野におけるアドホックネットワークという技術で、基地局のような大きな設備を使わずに、通信機能がある端末のみを利用して通信を可能にする研究です。例えばスマートフォンのように、端末が移動しながら通信していく状況でも、端末だけで無線通信を可能にするためのシステムに取り組んでいます。モバイルエージェントという技術を使用し、エリアの中心に一番近い端末を「集中管理役」と決め、通信ができるように、「位置情報」を管理するための方法を検証しています。

コンピュータ上でシミュレートして性能評価をしますが、そのためのプログラミングが難しく苦勞しました。また、学会用の論文作成では、追加で採ったデータの検証のために締め切り前日まで試行錯誤を繰り返す「あきらめずにとことんやること!」の大切さを実感しました。

### Q この研究は社会でどのように役立と良いと思いますか？

基地局が機能しなくなった災害時でも端末同士の無線通信で安否情報を送ることができます。また「車車間通信」という応用の道があります。交通状況などの情報をパケツリレーのように自動車から自動車へと伝えていくことで、事故防止や渋滞解消に役立とることができそうです。

### Q これからの目標をお聞かせください

卒業後は、システムエンジニアとして働きます。技術面を磨いて、世の中に役立つシステムを開発企画していきたいです。めざしているのは、お客様との会話から、必要とされる新たなシステムの提案ができるシステムエンジニアです。研究で培った論理的に物事を見る力やプレゼンテーションの経験は、社会に出てからも役立つのではないかと考えています。



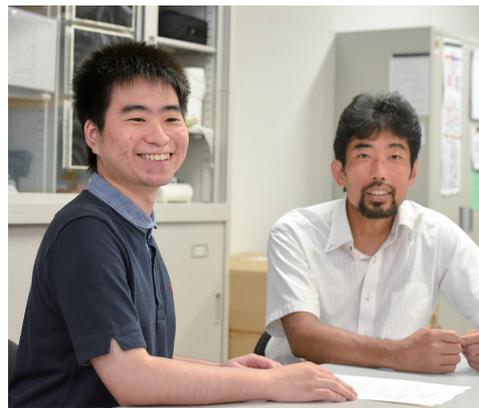
### 塩川研究室はどんな研究室？

先輩と後輩という上下関係を大切にしている研究室です。先輩と夜遅くまで専門分野の話をするのはとても楽しかったです。私も、後輩の指導をしたイベントの企画をしたりとアクティブに動いています。

### 塩川茂樹教授から榎原さんへのメッセージ

**自分に自信を持ち、人間関係の築き方に磨きをかけて活躍を!**

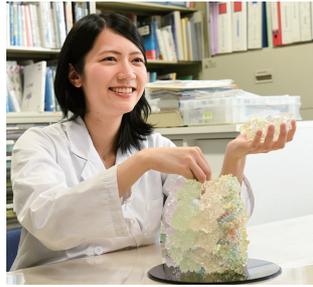
研究に対する姿勢は極めて優れています。結果を積み上げて、コツコツと研究テーマを築きあげていくタイプで、研究者としての十分な資質があります。そんな榎原君に必要なのは“もっと自分を信じること”です。「この分野では先生よりも知っている」という自信を持って欲しい。これは企業に入っても同じです。自信を持つことで、さらに伸びると思っています。社会に出てからは、人間関係の築き方にさらに磨きをかけて、さまざまな経験をして活躍して欲しいと願っています。



## 生命に必須のタンパク質・分子シャペロニンの反応機構の解析

前田 理帆グミラールさん

大学院応用化学・バイオサイエンス専攻  
バイオサイエンスコース博士前期課程2年(小池研究室)



### Q 研究内容について教えてください

生物の細胞内で働く「タンパク質のケアテイカー“シャペロン”」についての研究をしています。シャペロンGroELは二つのリングが重なった樽型構造をしており、そこに蓋のようにGroESが結合してできた閉鎖空間内で傷ついたタンパク質を再生します。このように生命にとって必須であるシャペロンの詳細な反応機構を明らかにすることは生命現象を理解するうえで非常に重要です。また、シャペロンの性質を利用した工学的な応用も期待しており、基礎固めとして、遺伝子工学やタンパク質工学的な手法も駆使しながら、実験・計測、解析に取り組んでいます。

私は4年次の最初の研究報告会をきっかけに、考え方が大きく変わりました。小池先生から「うまくいかなかったデータも一つの結果。なぜそうなったかという考察もできる」と助言され、「失敗も捉え方次第で失敗ではなくなる」ということ、また、科学者は皆そういう風に考えて進んでいくのだと実感しました。このできごとは、いつも私の頭の中にあります。

### Q この研究は社会でどのように役立つと思いますか？

シャペロンは生化学の教科書に載るような重要なタンパク質です。正しい反応機構が解明され、教科書が改訂されることで、世界中の人々が正しい反応を学べるようになります。さらに、シャペロンの機能異常により引き起こされる病気の予防や改善に役立つでしょう。また、シャペロンをナノカプセルとして使用することで、ドラッグデリバリーシステムや燃料電池などへの応用も考えております。

### Q これからの目標をお聞かせください

電子部品メーカーに就職する予定です。現在まで、バイオと電気化学の融合技術は実用化された例は少ないと思います。そこで、基板やコンデンサ、電気自動車などの開発に、私が持っているバイオの知識を活かし、日常生活にかかせない電子部品を発展させ社会に貢献したいと考えています。

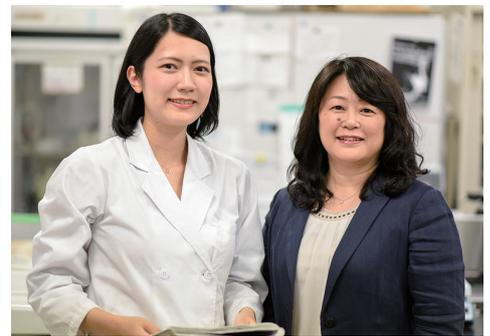
### 小池研究室はどんな研究室？

メンバー全員にそれぞれの役割があり、それをきちんと果たすことでラボ全体が一つの方向に進んでいきます。また、各々が研究テーマや研究室を誇りに思っております。そんな小池研究室が大好きです。

### 小池あゆみ教授から前田さんへのメッセージ

#### 考える習慣を持續し 自分の特長を活かして果敢に挑戦を

実験結果から何か一つでも分かるとキラキラと嬉しそうに笑うのがとても印象的です。職人気質で手先が器用なことに加え、研究者に必要な丹念に実験を積み重ねて、結果を見て考察する力も優れています。研究室で培った「なぜそうなるのか」と考える習慣を今後も続けていくと、さらに大きく伸びていくでしょう。就職先に選んだ電子部品業界の研究開発でも、バイオ分野の研究者が活躍できると思いますので、自分の特長を活かして果敢に挑戦してってください。



## パルス電界によるバラスト水の殺菌

中田 悠太さん

大学院電気電子工学専攻博士前期課程2年(瑞慶覧研究室)



### Q 研究内容について教えてください

パルス電界によって船舶のバラスト水\*を殺菌する研究に取り組んでいます。パルス電界は菌に電圧をかけて細胞壁を破壊し殺菌する方法です。殺菌実験では、別の要因で菌が死滅している可能性もあるため、パルス電界による反応で殺菌されているか否かを検証するために、4年次の後半から約1年間かけて実験を繰り返しました。

昨年からは、さらに効果を上げるために海水に薬品を添加し、そこにパルス電界を加える方式での研究をしています。小さな菌の殺菌処理はできているので、今後は大きいサイズの菌に対する効果の検証が課題になります。蛍光顕微鏡や電子顕微鏡を用いた菌の観察や撮影、検証などでは、栄養生命科学科や応用バイオ科学科の先生方にも助言をいただいています。さらにデータを積み重ね、今年度中に国内外の学会で4回発表を行います。企業との共同研究なので、卒業するまでに「実用化しよう!」と言ってもらえるくらいの成果を出したいです。

\*バラスト水=船舶の重しとして使用される海水。国際間を移送されて排出されるため、海水中の微生物等による生態系の影響が問題となっている。

### Q この研究は社会でどのように役立つと思いますか？

船舶バラスト水中の微生物や細菌を殺菌することで、海の生態系の乱れを防ぎます。また、従来からある装置では、大きい菌をフィルターで取り除き、小さな菌は薬剤や電気分解等で処理していますが、パルス電界による殺菌では、一つの装置だけで殺菌が可能になり小型化もできます。船舶では、配管にパルス電界の装置を設置して水を流しながら殺菌することも考えています。

### Q これからの目標をお聞かせください

卒業後は、環境保全に取り組む発電プラントや船舶関係を手がける企業で「フィールドエンジニア」として働きます。現地に行き、発電機を取り付けるなど、自分の手で環境を守り支えられる技術者をめざします。

### 瑞慶覧研究室はどんな研究室？

国内外を問わず学会発表に積極的な人が多い研究室です。3年次からそのような先輩の姿を見て、私も数多くの学会に参加して発表したいと思いました。

### 瑞慶覧章朝教授から中田さんへのメッセージ

#### 積極的・建設的に取り組む姿勢を大切に さらなる飛躍を

この研究プロジェクトを成功させるために積極的に、そして建設的にアイデアを出して取り組んでいるところが素晴らしいです。学会発表も4年次から修士1年までに10回、修士2年で4回と数多く参加し、国内のみならず海外にも積極的に出て行くところが中田君の特長といえます。夜遅くまで毎日実験をしたりデータを整理したり、土、日も研究室に来て実験をしています。先輩や後輩の研究を協力的に手伝うのも良いところです。積極的・建設的に取り組む姿勢や、他の人の仕事にも関心をもって協力していく姿勢を続けることで、知らず知らずのうちに知識や能力がついていきます。社会に出てからはそれが武器になるので、今の姿勢を崩さずに続けてください。



# KAITアリーナ

## KAIT ARENA

新しい発想のもとに設計され、約2,000名の式典にも対応可能な複合型体育館「KAITアリーナ」。バレーボール、バスケットボール、バドミントンの大学公式基準を満たしたコートのほか、卓球場、柔道場、剣道場、格闘技場、フットサルコート、トレーニングルームを備えています。「KAITアリーナ」は、2014年3月の竣工から、体育の授業のほか、部活動、公式試合など活発に利用されている本学自慢の施設です。



バスケットボールコート



バレーボールコート



卓球場



フットサルコート



バドミントンコート



柔道場



ボクシング場

## トレーニングルーム

### TRAINING ROOM

本格的なマシンが揃った「トレーニングルーム」は、学生や教職員なら誰でも利用することができます。本施設は普段、学生たちにどのように利用されているのか、トレーナーの下澤さんにお聞きました。

トレーニングルームには、私たちトレーナーが毎日常駐し、利用方法の説明や、トレーニングの補助を行っています。部活動の学生が、ウエイトトレーニングやケガのリハビリなどで利用するほか、フィットネスを目的に女子学生も積極的に利用しています。勉強や研究の合間にリフレッシュするためにも、それぞれの目的に合わせてぜひ利用してもらいたいです。

(オープン:平日/12:00~21:00)

土曜/9:00~18:00)

トレーナー  
下澤 誠也さん



### 【新入生】機械工学科合同フレッシュャーズキャンプを実施

かつて本学では、全学科の新入生を対象とし、クラス担任や新入生同士の親睦とクラブ活動の紹介をする新入生歓迎キャンプという行事を箱根の施設で行っていました。全ての学科の新入生やクラス担任の教員および運営に携わる上級生など、貸し切りバスを30台ほど連ねて現地に到着する様子は非常に壮観であり、新入生たちも改めて大学という大きな組織の一員になったと実感した、初めての大学行事であったと思われま。その後、フレッシュャーズキャンプと改称されたり、実施が学科ごとになったり、と変遷をしていますが、いずれにしても入学した新入生が初めて体験する大学行事であることは、今も昔も変わりません。

機械工学科では、昨年までに約40人のクラスごとに別れて小規模で実施していたフレッシュャーズキャンプ (FC) を、今年度から全クラス合同で実施することになりました。その1年目である本年度は、群馬県伊香保温泉に一泊二日の日程で、引率教員・学生と新入生総勢約150名が大型バス3台で出かけました。

新入生にとっては、連日の学内オリエンテーションなどの初めての大学行事で心身ともに疲れていたのか、往路のバスの中やホテルに到着したばかりの全体会では、おとなしく静かで、ほとんど話し声も聞こえない状況でした。

初日は、各種ガイダンスや履修相談会、アドバイザー教員との懇親会が実施され、新入生諸君は初めての大学生活を経験する緊張の中にも、徐々に教員や友人と打ち解けていく様子がかがえました。特に、夕食後に実施されたアドバイザー教員との懇親会や、そのあとの上級生による履修相談会などでは、新入生たちもかなり緊張がほぐれ、友人もできはじめたようで、会場内の至る所から笑い声も聞こえてくる様子でした。

二日目は世界遺産にも登録されている富岡製糸場を見学し、これから大学で学ぶ「機械」に関する明治の技術者たちの成果に直接触れることができました。富岡製糸場の見学では、特に見学ルートを設定していなかったため、新入生諸君が行動に戸惑うことも懸念されましたが、実際には前の晩から共に過ごした新しい友達同士で、楽しく、自由に見学をしていました。二日目の昼食は、群馬県特産のこんにゃく料理などを全員でいただき、本厚木駅経由で全員無事に大学に帰着しました。

初日、バスに乗車するときの緊張した新入生の面持ちから、夜の履修相談会などでの様子、二日目の見学先や昼食時での様子など、明らかに変わっていく表情を目の当

りにすると、キャンプを行うことの長所を実感しました。さらに、全員無事に卒業して、エンジニアとして社会で活躍してくれることを、大学教員の一人として願うばかりです。(文責: 機械工学科准教授/ 矢田 直之)



### 新任のご挨拶

機械工学科 准教授 渡部 武夫

本年4月より機械工学科に着任いたしました渡部武夫と申します。

あらゆる「機械」を構成するうえで基本となる、部品や構造を設計するために不可欠な材料力学や構造力学、そしてそれらを用いて所望の動作を実現するための機構学が専門です。演習を交えて、実践的な授業をめざしています。

渡部研究室では、宇宙での使用を目的としたさまざまな機器の開発にかかわる研究を行っています。特に人工流れ星プロジェクトでは、搭載品の軽量化や信頼性向上のための研究に携わっていますが、このプロジェクトが実現すれば、科学的、技術的な成果に加え、新しいエンターテインメントの創出といった文化的な成果も期待できます。世の中を便利にするだけでなく、「心を豊かにする」宇宙技術を目指しています。よろしくお願いたします。

【専門】材料・構造力学、機構学、宇宙工学

【担当授業科目】材料力学II、材料力学III、機械及び電気工学実験、機械応用実験、卒業研究 ほか



## 学部4年の学生が学会で発表をしました。

電気電子情報工学科では学生の学会発表を推進しています。

先日、学部4年生の伊藤航平さんは、日本マリンエンジニアリング学術講演会に参加し、以下の様に感想を話しました。

「今回、日本マリンエンジニアリング学術講演会に参加し、伝えたいことを相手に伝えることの難しさ、練習の重要性を学ぶことが出来ました。自分の理解と解釈を相手に納得のいくように説明する、初めて聞く人にも分かりやすく説明することを意識し、発表資料の修正や言葉遣いに気をつけて何度も練習を行いました。当日は、不安や緊張から思うように言葉が出てきませんでしたが、何度も行った練習の甲斐があり徐々に落ち着きを戻して発表を行うことが出来ました。また、会場内では他大学の学生も多く参加しており、新たな興味や知見を広げる機会を得られました。自分の卒業研究に対するモチベーションも上がり、より深く探求していきたいと感じました。

今回の経験は、今後の大学生活だけでなく社会に出ても役に立つと思っています。自分の殻を破り様々なことに進んで挑戦し、このアドバンテージを次の機会に活かしていきたいと感じました。」

(文責: 電気電子情報工学科教授/ 瑞慶覧 章朝)



伊藤航平さん(左)、大学院生中田悠太さん(右)



## 恒例行事 全学年懇親会「縦コン」を開催

6月5日、全講義終了後に電気電子情報工学科の全学年懇親会(通称: E科縦コン)を開催しました。第一食堂を半分貸し切りにして、軽食をとりながら〇×ゲームやビンゴを行い、先生方から提供された賞品の争奪戦で大いに盛り上がりました。

特に小宮学長が提供して下さった図書券は、ゲームの勝者にとって勉強用の図書を購入する役に立ったことでしょう。他にも、かき氷器を獲得した学生や、授業の教科書が当たった学生もいます。

電気電子情報工学科では原則として講義は学年ごとに行われますし、クラス懇談会も同一学年内での懇親会を目的としています。そのため、1年生から4年生までが一緒に活動する機会はありません。そこで「〇〇先生の講義は難しい」とか、「昨年度の課題の答えは××だ」といった情報交換を行い、先輩と後輩の絆を強めようという目的で、学生が主体となって4年前に縦コンを始めました。今年の縦コンを取り仕切った4年生の幹事は、新入生の時からこの催しに関わり続けています。

縦コンは年々進化しています。当初は先生方からの寄付と学生課からの懇親会費だけに頼って運営されていましたが、昨年の幾徳祭では「E科 縦コン幹事団」として模擬店を出し、その利益を今年の縦コンの費用に充当しました。幹事たちは、E科の全員が懇談会をやるための資金をボランティアで稼ぎ出すというユニークな活動をしているため、「大学時代に何に打ち込みましたか?」という就職試験の面接で有利がちな質問に対しても、臆することなく「学科のための親睦会の幹事をしていました」と語る事ができます。

小宮学長をはじめとして、学内外の多くの方々にご協力いただき、今年も盛況でした。来年の縦コンの前に、今年の幾徳祭でも黒字必達で模擬店を運営します。今年もご協力をお願い申し上げます。

<E科 縦コン幹事団 一同>

(文責: 電気電子情報工学科教授/ 小室 貴紀)



司会者が盛り上げます



盛大だったビンゴ大会



小宮学長より賞品を提供いただきました

## 新入生フレッシュャーズ・キャンプを実施しました。

応用化学科では毎年、新入生恒例のフレッシュャーズ・キャンプを実施しています。新入生同士の交流を深めること、教員との親睦が主な目的になりますが、コース選択の説明や時間割の作成の注意点など、今後の4年間を過ごす上で重要な2日間でもあります。今年は静岡県三保の松原の近くのホテルでの実施となりました。当日の出発時は天候に恵まれましたが、現地到着の頃には生憎の雨模様で、松林の観察散歩は断念となりました。ホテル到着後、本学科のコースを説明。応用化学科では応用化学コース、総合化学エンジニアコース、医生命科学特別専攻の2コース1専攻があり、いずれかのコースに所属して、カリキュラムを決定していく必要があります。これらの説明の後、学生達は個々に適したコースの選択をし、時間割を作成していきましました。ある程度慣れてきた頃に、アイスブレイクを行いました。心をうち溶け合うための共同で行うゲームです。いろいろなゲームを楽しんで、クラスの絆も深まったようです。全体的にハードなスケジュールでしたが、友人ができて、親睦を深めることができた2日間だったと思います。



## 卒業研究体験実習はじまります

応用化学科の本年度からの取り組みで、1年次から卒業研究を体験してもらう授業が始まりました。卒業研究は4年次に研究室配属されて研究を行うものですが、1年次からその一部でも早めに実施して、「化学ではこんなことができるんだ」という体験を、「将来に向けてこういったことを今のうちから勉強しよう」という目的意識の向上に役立ててもらおうと狙っています。本年度は6月からの2ヶ月という短い間の実施になりますが、既にどの研究室で研究するかをグループで話し合っている状況です。より良い体験実習ができるよう、応用化学科では継続して研究を行えるプログラムを提供しています。



## 臨床工学科新入生フレッシュャーズ・ガイダンスを実施

今年度、3期生となる新入生47名を迎えることができました。そして、4月6～7日の2日間、臨床工学科のフレッシュャーズ・ガイダンスが実施されました。

1日目は、学科の教職員の紹介の後、クラス担当教員との懇談を行いました。そして、臨床工学科における学びの姿勢と、臨床工学技士の仕事内容、医療人としてのマナー、資格試験に関する説明がありました。昼食は、学生、教員全員揃っての会食で、先輩の学生も10名ほど参加し、楽しい時間を過ごしました。午後からは、付属図書館の紹介、基礎教育支援センターの紹介、さらに学科教員による教務と履修に関する説明がありました。

2日目は、キャンパスツアー、パソコン講習を行い、昼食となりました。午後は、学生相談室の先生のリードでレクリエーションを行い、引き続きパソコン講習を行いました。この2日間で、新入生同士の交流を深め、4年間の臨床工学科での学びがスタートしました。(文責:臨床工学科教授/松田 康広)



今年度の新入生たち(クラスごとに撮影)

## 第44回日本血液浄化技術学会学術大会開催 本学臨床工学科学生が 実行委員として活躍!

4月22日、23日の2日間に渡り、「第44回日本血液浄化技術学会学術大会」(大会長:A科 山家敏彦)を東京ビッグサイトにて開催致しました。本大会は、教員のみならず、臨床工学科3年生の有志が会場の下見、抄録作成などの準備から、受付、会場係など実行委員として関わり、大変大きな力を発揮してくれました。意見交換会では、他大学の教員や医療スタッフの多くから「学生でもここまで出来るのか!」、「学生の素晴らしい接遇に感動しました!」など、大絶賛を頂きました。また、本学ホームエレクトロニクス開発学科一色正男教授、情報工学科田中博教授、情報メディア学科小坂崇之准教授らによる先端工学と未来の医療に繋がる貴重な講演も聴講できました。参加者約800名に対する本学教員、学生らによる学術のおもてなしが学術大会を成功に導いていたものと考えます。

(文責:臨床工学科教授/山家 敏彦)



A科学生 実行委員



第44回 日本血液浄化技術学会学術大会・総会

日本血液浄化技術学会役員ととも前にから2、3列目がA科学生 実行委員

## 新入生 フレッシュヤーズ・ガイダンスを実施

今年度、本学科では新入生53名を迎え、4月6日・7日の2日間、フレッシュヤーズ・ガイダンス(FG)を実施いたしました。

1日目は、学科長の挨拶から始まり、基礎教育支援センター紹介、履修相談会、昼食会、プロジェクト&リサーチアクティビティ紹介、PC配布&初期設定、2日目は学内探索、交流会、クラス懇談会を行いました。

基礎教育支援センター紹介では、大学講義を受ける上での基礎学力の重要性とそのサポート体制について話しがありました。

履修相談会では、大学で講義を受けるために「履修登録」が必要なこと、受講内容は自分で決めて申請すること、また、履修ケースについて資料を用いて紹介しました。自分で履修科目を決める初めての作業に戸惑いや不安を覚えている新入生も多かったかと思いますが、仲間同士で相談したり、先生に質問するなどして、どの講義を受講するかを真剣に検討していました。また、学生生活などについて先輩にも質問し、興味深く聞いていました。

昼食会では学科の教員、アドバイザー、チューターの先生、そして先輩と一緒に、これからの学生生活などの会話をしながらお弁当を食べました。

プロジェクト&リサーチアクティビティ紹介では、競技プロジェクト車両の紹介と製作現場見学、実車を見ながらの研究活動紹介を行いました。製作現場見学では、先輩が製作している過程を間近に見ながら、直接質問をぶつけてみるなど積極的な新入生もいたようです。

また、実車に触れながら研究内容についての質疑応答をしていく中で、これからの授業を受ける姿勢や、モチベーションアップが図れたのではないかと思います。

1日目最後は、ノートPC配布(または持参したノートPC)と初期設定です。ノートPC必



プロジェクト&amp;リサーチアクティビティ紹介



交流会



新入生集合写真撮影



昼食会



履修相談会



須の授業も多く、標準アプリケーションのインストールや初期設定が必要なため、授業が始まる前に設定を行いました。

設定方法がマニュアルに書いてあってもなかなかうまくいかない場合も多く、時間をとって先輩にも聞きながら設定を済ませることができたようです。

2日目は、まだ会話していない新入生同士でグループを組んで、学内施設を探索しました。

今後、授業で利用する教室や学内施設について、MAPを見ながら探索していく中で、施設の確認はもとより、グループ内での交流も深まったようです。

学内探索を行いグループ内での交流もできたところで、全体での交流会を行いました。

交流会では、2日目ということもあり、多少緊張感も和らぎ、積極的に参加してくれました。

全体の前で1人ずつ自己紹介を簡単にしてもらいました。同郷出身や趣味が同じであるなど、気づくことも多く、同期を知るきっかけに役立ったのではないのでしょうか。

最後に、クラス懇談会では各担任のクラスに分かれて、クラス担任の先生やクラスの仲間同士でさらに親密な関係が築けたのではないかと思います。

この2日間で、先生や先輩と相談したり、多くの仲間と出会うことができたと思います。

また、学内施設確認や履修計画をしっかりと立てたこと、最終学年で履修する卒業研究のイメージを確認できたことで、大学生活のスタートができたことと思います。

(文責:自動車システム開発工学科 助教/小宮聖司)

## フィリピン私立高校JCAでの「ロボットイベントROBOTICS CAMP2017」に参加

3月27日～31日、フィリピンの私立高校 Jubilee Christian Academy (JCA) の創立50周年記念イベント (ROBOTICS CAMP 2017) に本学科教員3名 (吉野教授、吉留准教授、河原崎) が招かれ、ロボットに関する招待講演、ロボットのデモ、LEGO MINDSTORM実習を行いました。JCAは、小学校から高校までである中華系私立学校であり、一昨年高校生が本学を訪問したことがきっかけで、本イベントへの招待となりました。昨年、高校にロボットを学ぶコースが設置されたとのことで、ロボットに関する関心が高く、講演後に30名程の高校生と熱心なディスカッションを行いました。翌日、予定にはありませんでしたが、急遽小学生向けの講演、デモ、実習を依頼されました。ジェスチャによりロボットを動かすデモでは、小学生が高校生以上に積極的に参加していました。JCAからは、今年も同じプログラムを期待されており、機会があればまた訪問したいと考えています。

(文責:ロボット・メカトロニクス学科教授/河原崎 徳之)



## KORP活動報告

KORP (神奈川工科大学オリジナルロボット製作プロジェクト) のメンバーによる活動報告会を、4月7日のフレッシュヤーズガイダンスにおいて1年生の前で行いました。3年生の発表が1件、2年生の発表が3件、合計4件の発表がありました。3年生のチームは、授業中に居眠りする友人を見て考え付いた「居眠り防止装置 SnoozZ」を発表しました。目を瞑ると背後からハンマーで叩かれるという面白いシステムで、画像処理で目を瞑ったことを判断しています。2年生のチームは、毎日持っているカバンを自走化させることを目標に今回は手元のスイッチでカバンを運転する「電動スーツケース」を発表しました。重い荷物を運ぶために強力なモータをどのように扱うかを勉強したようです。そのほか「あいさつロボット」や「アーム型ロボット」の発表がありました。今回は大変独創的で面白い発表があったと思います。12名の新入生がKORPに参加し、活動を開始しました。次回も期待したいです。

(文責:ロボット・メカトロニクス学科准教授/吉留 忠史)



居眠り防止装置 SnoozZ



電動スーツケース

## 海外創造工学研修

海外創造工学研修が、2月20日～28日まで、シンガポール国立大学で実施されました。研修では、組み込み技術の基礎を学び、自律走行車の製作とC言語を用いたプログラミング制御にチャレンジしました。また、研修に参加した学生の報告会を5月19日に開催。組み込み技術、プログラミング制御などの学習だけではなく、観光施設や名所を巡り、様々な経験をして、英語の大切さを実感した有意義な研修となったようです。



## 台湾大学と連携したものづくりワークショップを実施

今年で2回目となる国立台湾大学での「ものづくりワークショップ」が3月10日～13日に開催され、現・4年生の4名が参加しました。国立台湾大学からは工学部林教授の研究室の学生が参加。初日は、国立台湾大学の学園祭を見物し、K.Kingdom社の協力による搬送用ロボットの製作に取り組みました。学生達はグループに分かれて、英語でコミュニケーションをとりながら、真剣にロボットを作り、プログラムを作成しました。最終日には、各グループが製作したロボットの実演を行い、現地の学生が台北市内を案内し、台湾の文化にも触れました。短い期間でしたが、海外でのものづくり体験を通じてグローバルな考え方を理解でき、学生の成長に繋がったと感じました。

(2件・文責：ホームエレクトロニクス開発学科教授／黄 啓新)

## 地域貢献プロジェクト

### ～厚木市内の児童館への子ども理科教室の実施～

6月18日、厚木市荻野児童館で「折り紙ランプシェードを用いたLEDイルミネーションの製作」が実施されました。このイベントは学科2年生5名で構成される地域貢献プロジェクトグループと担当の三栖准教授が実施しました。三栖准教授はこのプロジェクトを始めた動機について「昨年の12月にLEDイルミネーションの製作を緑ヶ丘公民館で実施しました。参加した児童の父親が偶然、私の高校時代の友人でした。彼は「このようなことは本当に助かる。仕事が多忙で子供との時間が作りづらい。近所の児童館でイルミネーションを作らせてもらって、さらに持ち帰れる。本当に助かるよ」と話してくれました。これが地域貢献プロジェクトを始めるきっかけとなりました」と話しています。リーダーの眞田大輝さんは「自分たちは分かっていることでも誰かに教えることは難しいと感じた。今回の経験を次回につなげたい」と意欲を見せていました。

地域貢献プロジェクトの目的は学生の地域活動を通じた人間力・社会人基礎力の向上、ものづくり教材開発によるエンジニアとしての知識向上などが主な目的となっています。今後は三田・緑ヶ丘・毛利台・下古沢での同一内容の実施、さらに毛利台では高齢者向け施設(老人憩いの家)、社会福祉法人相模福祉村「たんぽぽの家」と連携した活動を実施する計画です。また高校生と、企業連携プロジェクトとの連携も予定されています。

<実施メンバー／ホームエレクトロニクス開発学科2年>

朝原裕貴さん、相原和維さん、眞田大輝さん(リーダー)、ハッ橋拓馬さん、中村龍一さん



## 新しいバイオフィアミリー(12期生)を迎えて

4月6日～7日、123名の新入生を迎えてフレッシュャーズキャンプに出かけました。初日は、日本科学未来館の見学を行い、最先端の科学技術に触れ、南九十九里のホテルに到着後は全体会、夕食およびクラス会を行いました。クラス会では、新入生の自己紹介や履修相談が行われ、翌日は、葛西臨海水族館の見学に行きました。

また、4月11日はキャンパスツアーを行い、第1食堂にて応用バイオ科学科の「第11回縦コン」が開催されました。

キャンパスツアーは、ウォークラリー形式で学内の各チェックポイントを周り、タイムを競い合うものです。雨模様でしたが新入生がグループを組み、交流を深めながら学内施設を回りました。短いタイムでチェックポイントをクリアできたグループは、その後開催された上級生と交流を深める「縦コン」で表彰されました。上位グループは実験ノートやボールペン、トップのグループにはスマホのカメラに取り付けられる顕微鏡が贈呈されました。新入生は学科に馴染むことができたでしょうか。

「縦コン」は新入生を歓迎するイベントで、2年生を中心に、約200名の学生が盛り上げてくれました。また、2016年の夏から加わった学科事務員さんと就職事務員さんが紹介されました。イベントでは、1年生に教員を早く覚えてもらうために、教員のことや科目に関する問題が出されましたが、1年生には難しい問題のようでした。さらに、恒例となつた「じゃんけん大会」が大盛況で、1年生も楽しいひと時になったのではないかと思います。1年生には、4年間で様々なことにチャレンジし、大きく成長してほしいと願っています。



## 平成28年度成績優秀者表彰

新学期ガイダンスに合わせて、平成28年度成績優秀者として以下の学生に、表彰状と記念品が授与されました。

新4年生：松田絵里さん、加部健太さん、君島健夫さん

新3年生：吉川僚汰さん、渡邊省吾さん、菊地悠太さん

新2年生：小川彩可さん、丸尾達也さん、廣瀬友輝さん

また、上記の学生と、新2年生福田絵莉菜さんに菊池幹夫奨励賞が授与されました。

## 栄養生命科学科の取組み

栄養生命科学科では、管理栄養士を養成するための教育課程に沿って勉学を進めます。管理栄養士は国家資格であり、4年間の最後の3月に国家試験を受験します。国家試験受験のために必要とする修了科目は広い範囲にわたります。そのため、学生の皆さんは、4年の間相当数の課題をこなしています。

学生の皆さんは、国家試験を目標とした勉強ばかりではなく、社会に貢献する研究にも携わっています。栄養生命科学科の各教員は、独自の研究テーマを持っており、日本国内で、また世界的にも認められる業績を上げています。3年の後期から始まる卒業研究では、学生の皆さんも各研究室に所属し、指導教員のもと実際に研究を進めます。

さまざまな研究テーマの中で、今回は臨床栄養学の分野で研究を進めた学生の方の学会での活躍を紹介します。病気になったときは、その病気の治療を目的とした栄養が必要になります。臨床栄養は、病気合った栄養のあり方を総合的に研究する分野です。

本学科の澤井明香准教授は、精神ストレスや運動と生活習慣病発症との関係について研究しています。澤井准教授の指導のもと、五十嵐梨乃さん(2016年度卒業)は、「健康腕時計を用いた身体活動と生活習慣病発症のリスクの検討」というテーマの研究内容で、日本臨床栄養学会総会(2016年10月)で学会発表をしました。その発表内容が認められ、40歳未満の研究者や臨床家に与えられる若手奨励賞(最優秀演題)を、最年少で受賞しました。

五十嵐さん以外の学生の皆さんも、優秀な研究結果を学会の総会で、また学会誌の論文として発表しています。栄養生命科学科は、管理栄養士養成のための教育課程の勉強に励むだけでなく、社会に貢献する研究も教育目標としています。



澤井准教授と五十嵐さん



3年次後期から卒業研究が始まる

## 学生紹介

木村咲香子さんは、現在、栄養生命科学科の3年生です。木村さんは、テコンドー部に所属し、3年に渡りさまざまな大会で優秀な成績を収めています。1年生の時は、イタリアで開催された世界大会で「個人型 女子の部 優勝」「団体型 女子の部 準優勝」「団体パワープレイング 女子の部 準優勝」「団体スペシャルプレイング 女子の部 第3位」という見事な結果でした。また、その年の全国大会でも「組手 一般女子 +52kg級 優勝」「型 一般女子 1-3段の部 第3位」のように優秀な成績を収めています。2年生の時も、国際大会、全国大会で優勝、準優勝、3位、技能賞を獲得しています。3年生の現在も、各大会で優勝、準優勝の快進撃を展開しています。

木村さんは、栄養生命科学科の学生なので、国家試験に向けた学業もしっかりと進めています。決して勉学に遅れをとることなく、文武両道の管理栄養士の卵として育てています。

(木村さんの関連記事を本誌P.16に掲載)



来年、アルゼンチンで行われる世界大会出場をめぐっています。

## タイ王国からの研修生受入れ

タイ王国の名門、チュロンコン大学から研修生11名を、5月30日から8月4日まで本学情報学部で受け入れています。同大学は、1917年創立のタイ王国の最高学府であり、政府関係者を含め多くの指導者を輩出している名門です。本インターンシッププログラムは、2015年にスタートし、今年で3年目を迎えました。

研修生は事前に本学側が提示した研修テーマから選択し、そのテーマの研究室に置籍しています。2ヶ月超の期間の中で、画像技術や認識、人工知能技術などの各テーマに取り組むとともに、並行して週1回の情報技術に関する講義の受講、各研究室の研究内容の見学を行います。また、日本を代表する外部の研究開発機関の見学や県立厚木高校との交流も予定しています。

研修テーマの企画発表会、そして最後には研修テーマの成果発表会が計画されていますが、既に研修生は本学研究室の学生と連動して、解析、コンピュータシミュレーションや実験に取り組んでいます。互いに母国語ではない英語を介したコミュニケーションになりますが、本学のグローバル化促進と、双方の学生の成長と両国の友好の深化に意義のある研修になっています。(文責:情報工学科教授/田中 博)



## 新入生 フレッシュヤーズ・ガイダンスを実施

桜の花が満開となる頃、新年度授業開始前の時期に、新入生を歓迎するためのフレッシュヤーズ・ガイダンス(FG)が2日間実施されました。FGでは、新入生がこれからの大学生活を進めていく上での大切な心構えを持ち、上級生や教職員とお互いの懇親を深めて行くためのきっかけ作りが狙いです。

初日のガイダンスは、上級生であるKAITpia(カイトピア)学生リーダーの司会進行により実施されました。まず学科長田中博教授から4年間の大学生活の過ごし方の話を、キャリア就職委員・木村誠聡教授からは就職と進学の話がありました。さらに、学生有志によるソフトウェア工場の活動紹介、図書館や基礎教育支援センターの利用方法など、大学生活に関する有益な話題を提供いただきました。午後からは、4クラスの懇談会会場に分かれて、自己紹介などを交えた昼食会を実施しました。さらに、各クラスアドバイザーの少人数班に分かれて、学修についてや学生生活の話題と共に授業履修計画のアドバイスをを行いました。2日目は、授業履修相談会、ノートPC利用に関するガイダンス、PCのセットアップ講習会が実施され、充実した2日間で新年度のスタートを切ることができました。

(文責:情報工学科准教授/鷹野 孝典)



## PBLの取り組み

情報ネットワーク・コミュニケーション学科では、アクティブラーニングの一環として、PBL (Project-Based Learning) に取り組んでいます。PBLとは課題解決型学習と呼ばれるもので、課題を解決しながら学習することです。講義形式の授業と違い学生主体で考え、話し合いながら課題に取り組みます。これによりコミュニケーション能力の向上や、課題解決能力の向上を狙っています。

講義は概念的な知識を得るのには向いていますが、概念だけ知っていても良い技術者にはなれません。例えば車を運転したことが無い人に車の運転の概念だけ教えても、プロのドライバーにはなれません。上達するためにはひたすら車に乗って運転の練習をするしかありません。

現在の参加者は9名で2年生が中心です。参加者のレベルは普段からサーバ構築などを行っている学生や、授業以外では専門技術に関わりが無い学生など様々です。今季のPBLの目標は無線技術の基礎を学習し、大学の無線電波の現状を解析することで、インフラ構築の基礎を学習することです。



## 研究紹介

## 3Dプリンタ用データの著作権保護技術

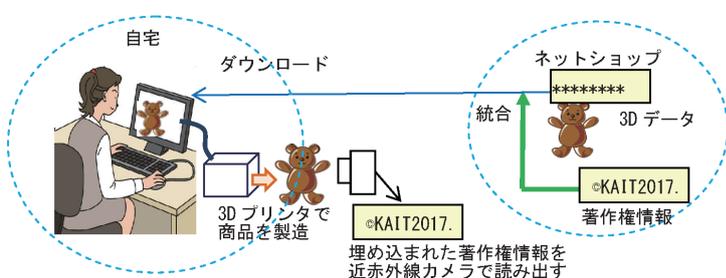
上平研究室

情報ネットワーク・コミュニケーション学科 教授 上平員丈

近年、3Dプリンタは小型化、低価格化が進み、将来は一般家庭まで広く普及すると予想されています。3Dプリンタが普及すれば、消費者は商品を購入しなくても、インターネットを介して商品のデータを購入すれば、自宅でも商品が製造することができます。このため、3Dプリンタは将来、ものづくりや流通の姿を大きく変革すると言われています。しかし、3Dプリンタ用データがインターネット上で売買されるためには、従来の音楽や映像のデータと同様に違法コピーや不正使用を防止する技術が必要となります。しかし、まだそのような技術は開発されていません。

私たちの研究室では3Dプリンタで製造される商品の内部に著作権を表す微細なパターンを外から見えないように形成し、外部からこのパターンの有無をチェックすることで商品が不正に製造されたものでないかチェックできる技術を研究しています。非破壊で内部のパターンをチェックできる技術の実現が本研究のキーとなりますが、当研究室では近赤外線カメラを用いてこれを実現しました。

本研究の成果を当研究室の大学院修士2年の中村耕助さんが今年2月にアテネで開催された国際学会で発表しました。本発表に学会から最優秀論文賞が与えられました。



## 情報メディア学科授業紹介

### 演劇制作プロジェクト研究

昨年度の後期より「演劇制作プロジェクト研究」をスタートさせました。必修演習の一つである「演劇制作演習」への希望者が多かったことから、さらに自主的かつ専門的に演劇制作を行ってみたいという学生が20名、第1回研究に参加してくれました。「演出」「俳優」「技術」の3パートに分かれて、脚本作りから本読み、稽古、本発表までをこなしました。日常生活では発揮できない、内に秘めた才能とエネルギーを各自が表現かつ発揮してくれて、無事に第1回の研究成果を納めることができました。この「演劇制作プロジェクト研究」はさらに専門に特化する形で引き続き行なっていく予定です。



1回プロジェクト研究の様子

### 演劇制作演習

昨年から前期必修演習の一つとして「演劇制作演習」を行うこととしました。30名定員のところに50名を超える応募があり、予想外に学生が「演劇」に興味を持っていることが分かりました。演習では、6人5チームに分かれて、1人ずつが書いた脚本の中から1本を選び、1人が演出を担当して、全員が俳優を務めました。最終授業日に、5チームそれぞれが異なる脚本による本発表を行いました。各チームごとにまったくカラーの違う内容、演出、演技で、各自の個性が色濃く出た結果となりました。この「演劇制作演習」は引き続き必修演習の一つとして、学生の自主性を引き出すきっかけとしても展開していく予定です。



6人5チームに分かれて演劇制作の演習を行う

(文責:情報メディア学科教授/梶 研吾)

## アイドルグループ「仮面女子」の映画でスタッフとしてプロデビュー

人気アイドルグループ「仮面女子」が出演を務めた映画「いま、ダンスする」(監督・梶研吾、共演・篠原信一氏)で、研究室の金城清香さんがメイクのスタッフとしてプロデビューしました。金城さんは今後は専門の特殊メイクを中心に映画界などで働いていきたいそうです。また、演出部監督補で梶研究室OGの大塩彩美さんも参加しています。

(文責:情報メディア学科教授/梶 研吾)



## 看護学科3期生新入生を迎えて

開設3年目の看護学部、3期生89名が入学いたしました。4月1日には初登校をし、新1年生は少し緊張しながらも期待に胸をふくらませてオリエンテーションを受けていました。クラス全員が同じ時間割で学んでいた高校とは異なり、たくさんの授業科目の中から履修科目を選択して自分だけの時間割を作ることに戸惑いながら、大学での主体的学習の第一歩として履修登録を済ませました。

4月6日、7日には、充実した大学生活を送るために、さまざまな角度からガイダンスを行うとともに、教員や上級生、同級生同士の懇親を深めるためにフレッシュ・ガイダンスが行われました。今年度のフレッシュ・ガイダンスは、上級生が企画・運営に参加しました。上級生が考えた「たどりつきたい夢がある」をテーマに、上級生が1年生の時に知りたかったことや先輩として伝えておきたいことをプログラムに盛り込みました。

1日目は、学部長の挨拶と講話から始まり、これから実習で着用する白衣の採寸や聴診器の購入、また「4年後の私」に向けてメッセージ(手紙)を書きました。これらのプログラムにより、いよいよ看護学生としての生活がスタートすることを実感したようでした。お昼はクラス担任と一緒に弁当を食べ、交流を深めました。午後からは、安全に学生生活を過ごすために必要な防犯教育や学生保険についての案内がありました。

2日目は、上級生から学生生活の実際についての説明がありました。充実した大学生活を送るためのコツ、学習の注意点など役立つ情報が多く、1年生は真剣に耳を傾けていました。その後、クラス担任や上級生とレクリエーションや立食パーティを行い、親睦を深めました。2日間のフレッシュ・ガイダンスを通して、1年生は看護職になっている4年後の自分のイメージを膨らませ、看護を学ぶ大学生としての自覚とやる気が高まったようでした。

(文責:看護学科准教授/佐藤 美由紀)



レクリエーションや懇親会が行われました

## 新任教員紹介

### <小児看護学領域>

教授 濱岡 環

【専門】

小児看護学

【担当授業科目】

小児看護学概論、小児看護学活動論Ⅰ・Ⅱ、小児看護学実習Ⅰ・Ⅱ、看護研究Ⅰ・Ⅱ、統合看護実習(一部)



### <母性看護学領域>

准教授 小野 智佐子

【専門】

母性看護学

【担当授業科目】

母性看護学概論、母性活動論Ⅰ、母性活動論Ⅱ、母性看護学実習、看護研究Ⅱ、スタディスキル、実践統合演習(OSCE)、統合看護実習



### <精神看護学領域>

講師 松尾 綾

【専門】

精神看護学

【担当授業科目】

精神看護学活動論Ⅰ、精神看護学活動論Ⅱ、精神看護学実習 他



### <基礎看護学領域>

講師 杉山 洋介

【専門】

基礎看護学、災害・救急医療

【担当授業科目】

スタディスキル、看護技術総論、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ、実践総合演習



### <基礎看護学領域>

講師 水谷 郷美

【専門】

基礎看護学

【担当授業科目】

基礎看護技術Ⅱ(ヘルスアセスメント)、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ、基礎看護技術Ⅰ・Ⅲ



### <在宅看護学領域>

助手 山本 絵梨香

【専門】

在宅看護学



# 学生☆の活躍

ACTIVITIES

## ワールド・エコノ・ムーブ2017秋田大会の燃料電池部門に参戦 特別賞を受賞

5月5日、6日に秋田県大湯村ソーラースポーツラインで開催された「ワールド・エコノ・ムーブ2017秋田大会」の「燃料電池部門」に、本学の自動車システム開発工学科のEVエコランカープロジェクトが参戦。

大会では、駆動システムやコントローラーをすべて手作りしているチームは非常に珍しいため、競技会本部から何度か取材を受けました。そして、本チームは、手作りが認められてFB(古川電池)賞という特別賞を受賞しました。



## 大学院生の家山奨男さんがライフサポート学会奨励賞を受賞しました

ライフサポート学会では、人物、学業ともに最優秀で、卒業研究および修士・博士課程における研究において、生命・生活支援技術の発展に積極的に取り組んだ学生を対象とした奨励賞を設けています。

ロボット・メカトロニクスシステム専攻の家山奨男さん(2016年度修了)は、修士論文研究として「指文字学習サポートグローブの開発」に取り組み、その研究成果が評価され、奨励賞を受賞しました。指文字学習サポートグローブは、視覚による学習に頼っていた指文字・手話をサポートグローブを装着することで学習者の手指を直接アシストするシステムです。

この研究成果は、従来の研究ではできなかった人の手の動きをアシストできるシステムであり、学習機器以外の展開が見込まれています。

家山さんは、本研究の成果を3月10日に行われた第26回ライフサポート学会フロンティア講演会で発表し、本賞もその会場で受賞しました。また、家山さんは、出身の北海道のメーカにおいて技術者として第一歩を踏み出しましたが、大学院での研究経験を活かして、今後、社会で活躍されることと期待しています。

## 少林寺拳法部で3名の学生を表彰

少林寺拳法部では30年以上続く奨励基金というものがあり、勉学と部活動の両方で優秀な成果を挙げた部員を表彰しています。今年度は、機械工学科4年生の橋本友里さん、山内沙羅さん、五月女雅史さんの3名を表彰しました。



## 情報メディア学科の3年生による “VR赤ちゃん” [Real Baby - Real Family] が国際賞を連続受賞

情報メディア学科3年生らが開発したVR赤ちゃんプロジェクト [Real Baby -Real Family] が、2016年10月に行われた第24回国際学生対抗VRコンテスト (IVRC2016) にて100作品中唯一となる国際賞 [Laval Virtual Award] を受賞しました。

本受賞によって招待された欧州最大規模のVRフェスティバル [Laval Virtual 2017] (フランス・ラヴァル市) において、世界最大かつ最も歴史あるCG/インタラクティブ技術の国際会議である [ACM SIGGRAPH] より [ACM SIGGRAPH Award] を受賞し、2017年7月に開催される [SIGGRAPH 2017] (アメリカ・ロサンゼルス) で展示を行います。



## レンブラントホテル厚木主催 ブロック教室に本学教員と学生が協力

5月7日、レンブラントホテル厚木主催のゴールデンウィーク特別企画「ブロック教室とホテルバイキング」に、本学KAIT未来塾担当のホームエレクトロニクス開発学科教授と学生がブロック教室の進行を行いました。当日は2回に分けて開催され、親子合わせて200名以上の方々に参加されました。



## 『中部謙次郎賞』『大岐良一賞』 『石原健男賞』『加賀信男賞』表彰

本学大学院博士前期課程に在籍する大学院生を対象とする奨学金制度である『中部謙次郎賞』、『大岐良一賞』、『石原健男賞』、『加賀信男賞』の授与式が5月26日に学長室で行われました。

本賞は、中部謙次郎氏、大岐良一先生、石原健男先生、加賀信男先生の生前の業績と教育奨励に対する強い思いを末永く顕彰するため、毎年、中部謙一郎理事長が個人の資金を提供し、継続している奨学金制度です。授与式では小宮学長から、成績および人物ともに優秀な学生に奨学金が授与されました。

### <平成29年度受賞者>

- 『中部謙次郎賞』受賞者 松本 佳祐さん(機械システム工学専攻)
- 『大岐良一賞』受賞者 中田 悠太さん(電気電子工学専攻)
- 『石原健男賞』受賞者 前田 翔大さん(応用化学・バイオサイエンス専攻)
- 『加賀信男賞』受賞者 平井 智大さん(機械工学専攻)



## 国際会議における大学院生の受賞

情報工学専攻の大学院生が、以下の国際会議において受賞しました。

- ◆杉山 友記さん(情報工学専攻博士前期課程2年:塩川研究室)  
[NCSP'17] Student paper Award受賞  
論文タイトル:Multi-buffer control considering the number of replication in DTN
- ◆中村 耕介さん(情報工学専攻博士前期課程2年:上平研究室)  
[PATTERNS 2017] Best paper Award受賞  
論文タイトル:Embedding and Detecting Patterns in a 3D Printed Object

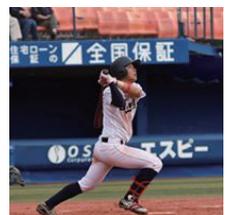
## 神奈川大学野球春季1部リーグ戦で 本学硬式野球部の選手が受賞

平成29年度神奈川大学野球春季1部リーグ戦が終了して、本学硬式野球部の選手が受賞しました。チーム成績は、5勝8敗(勝点2、勝率0.384)の4位でした。

### <ベストナイン>

下東 稜 一塁手 打率0.400

情報工学科3年(出身高校 東海大学付属甲府)





**クラブ活動紹介** **BASKETBALL** **バスケットボール部**  
大切にしているのは基礎練習と考える力、そして「5つの心得」

**一歩ずつ進むチーム！  
これからの成長が楽しみです**

今年度から監督に就任しました。「文武両道」を崩さず、部員たちの“努力”を考えて練習メニューを作成しています。彼らを指導する上で大切にしているのは基礎練習と考える力、そして、5つの心得です。限られた練習時間の中で上達していくには、プレイをする上での“引き出し”を上手に増やしていくことが大切で、それには基礎練習が欠かせません。基本をきちんと身につけていくことが次につながります。また、ミスをしたときには、なぜミスをしたのか考え、それを繰り返すことで考える力を養って欲しいと思っています。考える力があれば、社会に出て壁にぶつかったときにも乗り越えることができます。勝つ喜びも教えていきますが、勝つためには「素直な心」「感謝の心」「反省の心」「謙虚な心」「奉仕の心」という、5つの心得が必要だと言いながら指導をしています。それは、私も学生時代に教えられてきたことであり、社会で活躍するための基礎となります。今、練習を積み重ねることで、チームは一歩ずつ進歩しています。これから、どれくらい伸びていくかが楽しみです。



バスケットボール部  
**市川 新二** 監督  
(一般社団法人日本バスケットボール推進協議会 理事)

**監督を迎えて、何をすべきかがより明確になった**

5月末の時点で、神奈川県学生リーグ2部でベスト4が確定し、決勝進出に向けて練習に取り組んでいます。以前は部長が練習メニューを決めていましたが、今年度からは市川監督に来ていただき、何をすべきかがより明確になってきました。一人ひとりに対して、シュートやドリブルのフォームを教えてもらえるので、直すべきことが意識しやすくなっています。また、普段の練習ではシュート率のアップを課題にしています。まだ数値の変化は少ないのですが、フォームを意識してミスを減らす努力を続けることで、シュート率が上がっていくと感じています。部長としては、来年度につなげるためにも2年生4人と役割を分担して動くと共に、一歩引いてバスケット部全体を見るように心がけています。神奈川県学生リーグでの1部昇格と関東大学リーグでの4部昇格を目標に頑張っていきます。



バスケットボール部 部長  
**服部 素良**さん(工学部応用化学科3年)

**❗ KAIT CLOSE-UP!**

**陸上部**

両立のポイントは1日2時間の目的を絞った練習！

及川 知大さん(看護学部看護学科2年)  
第96回関東学生陸上競技対校選手権大会  
男子2部 10000m 決勝6位



競歩を始めたのは高校1年生の冬で、大学入学後も継続しています。今年5月の関東学生陸上競技対校選手権大会の男子2部10000mで6位に入賞しました。練習は週5日で、平日は大学で、土日は母校の陸上部やクラブチームで練習しています。競歩ではフォームが重視され、崩れると失格になるため、フォームの確認のためにもクラブチームなど外部の力は欠かせません。また、看護学科は実習や課題が多いので、両立させるために1日2時間以内で練習の目的を一つに絞り、さらに1日単位で目的を変えながら、集中して練習に取り組んでいます。他にも授業と授業の間の空き時間を練習に充てるなどの工夫もしています。また、先日行われた神奈川県選手権陸上大会で6位に入賞し、8月に行われる関東大会に出場が決まりました。

**陸上部部長から**

荒井 賢人さん(工学部機械工学科3年)  
陸上部として参加する大会の種目に競歩が無いため、及川君は個人でいろいろな大会に参加して結果を出しています。これからも記録を伸ばして入賞してほしいと思っています。

**テコンドー部**

学業にもテコンドーにも全力で取り組んでいます！

木村 咲香子さん(応用バイオ科学部栄養生命科学科3年)  
第26回全日本テコンドー選手権大会 組手と型の両方で優勝 MVP受賞

テコンドーを始めたのは4、5歳の頃で、現在は2段(ITF)です。今年3月に開催された第26回全日本テコンドー選手権大会では、組手と型の両方で優勝し、MVPをいただきました。テコンドー部の練習は月水金で、私は主に指導を担当しています。また、道場では週2回練習し、自主練も毎日欠かさず行なっています。試合前の減量時に、自分で栄養管理ができるようになりたいと思い栄養生命科学科に進学し、テストも実習もテコンドーも、目の前のことを全力で終わらせることを繰り返して3年生になりました。以前よりも栄養の知識もついてきたと感じています。学業と部活動を両立させて、テコンドーではどの大会でも勝ち続けることが目標で、来年アルゼンチンで開催される世界大会にも、出場したいと思っています。



# Office Information

オフィスインフォメーション

## 経営管理本部

### 総務課

### 理事・監事・評議員の就任(重任含む)

理事重任:5名(任期:平成29年4月1日～平成33年3月31日)  
小宮 一三、谷村 浩二、河野 隆二、上平 員文、磯村 恒  
評議員就任:1名(任期:平成29年4月1日～平成29年11月2日/前任者残任期間)  
木村 茂雄(選任区分:法人職員)  
評議員重任:3名(任期:平成29年4月1日～平成32年3月31日)  
石田 裕昭(選任区分:法人職員)  
高山 稔、中谷 修己(選任区分:学識経験者)

### 人事発令

#### 平成29年3月31日付け

##### 【定年退職】

田辺 誠(工学部機械工学科 教授)  
山岸 陽一(工学部機械工学科 教授)  
川嶋 良章(工学部応用化学科 教授)  
石濱 正男(創造工学部自動車システム開発工学科 教授)  
宇田 和史(創造工学部自動車システム開発工学科 教授)  
永原 和雄(学生支援本部学生課 スタッフ)

##### 【教育職員退職】

中谷 啓子(看護学部看護学科 教授)  
万代 敏夫(基礎・教養教育センター 教授)  
池田 広昭(基礎・教養教育センター 教授)  
青木 真希子(看護学部看護学科 任期制助手)

##### 【任期制教員期間満了退職】

阿川 麻実(応用バイオ科学部栄養生命科学科 任期制助手)

#### 平成29年4月1日付け

##### 【教育職員新規採用】

濱園 環(看護学部看護学科 教授)  
渡部 武夫(工学部機械工学科 准教授)  
小野 智佐子(看護学部看護学科 准教授)  
菱刈 美和子(看護学部看護学科 准教授)

##### 【任期制教員新規採用】

杉山 洋介(看護学部看護学科 任期制講師)  
松尾 綾(看護学部看護学科 任期制講師)  
水谷 郷美(看護学部看護学科 任期制講師)  
青木 真希子(看護学部看護学科 任期制助手)

##### 【事務職員(准職位)新規採用】

齋藤 雄二郎(学生支援本部学生課 准係長)

##### 【嘱託職員新規採用】

尾形 友香(経営管理本部総務課)  
佐藤 達朗(経営管理本部外部資金課)  
伊藤 エリ(学生支援本部国際課)  
小田 真宏(教育開発センター支援室)  
深堀 健一(工学教育研究推進機構機構支援室 リエゾンオフィス)  
松本 直人(工学教育研究推進機構技術支援室 KAIT工房)

##### 【教育職員昇任】

###### <准教授から教授へ昇任>

竹本 稔(工学部応用化学科 教授)  
山口 淳一(工学部応用化学科 教授)  
西村 広光(情報学部情報メディア学科 教授)  
高尾 秀伸(創造工学部ロボット・メカトロニクス学科 教授)  
三浦 直子(基礎・教養教育センター 教授)

###### <任期制助教から任期制准教授へ昇任>

岩田 一(情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科 任期制准教授)  
安本 匡佑(情報学部情報メディア学科 任期制准教授)

##### 【任期制教員の期間の定めのない雇用への変更】

高取 祐介(工学部電気電子情報工学科 准教授)  
高橋 宏(工学部電気電子情報工学科 准教授)  
杉村 博(創造工学部ホームエレクトロニクス開発工学科 准教授)  
神谷 克正(基礎・教養教育センター 准教授)  
田辺 基子(教職教育センター 准教授)

##### 【事務職員配置転換】

天貝 正吾(学生支援本部キャリア就職課・卒業生支援課 主任)

##### 【事務職員兼務】

長谷部 正孝(監査室長兼務)  
篠塚 保昭(監査室監査員兼務)  
梶浦 潤一(監査室監査員兼務)

##### 【嘱託職員兼務】

井上 雅仁(監査室監査員兼務)

##### 【管理者職位定年】

中澤 裕子(経営管理本部企画入学課)  
関 緑(学生支援本部教務課)

## 管財課

### エコ活動の報告

「ECO推進チームみどり」の学生達が中心となり、下記の活動を行いました。  
・4月 新入生ガイダンスにて、ECO活動をアピール。  
・5月 厚木市主催「みどりの祭り(厚木中央公園)」にて、本学「ECO活動」及び「Stop the CO<sub>2</sub>」ブースを開設し展示・説明実施。  
神奈川県中央相模川サミット合同グリーンキャンペーンに参加し、相模川河川敷清掃活動を実施。厚木市南毛利南地区青少年健全育成連絡協議会主催の「どろんこボール大会」の給水ボランティア活動を実施。  
・6月 クールビズ推進ポスター学内掲示。学生サービス講義棟の西面ガラス部分に「遮光カーテン」設置。湘南海岸の茅ヶ崎～大磯間の約13kmを神奈川県との共働活動で「ごみ持ち帰り声掛け」実施。NPO法人海さくらが主催の江ノ島周辺ごみ拾いに参加。

### KAIT工房見学者

5月21日、建築界のノーベル賞とも言われる「ブリツカー賞」の審査委員・受賞者を中心とした皆様約20名が、本学KAIT工房を見学に来られました。今年はブリツカー賞の授賞式は日本の迎賓館赤坂離宮にて5月20日に行われ、その翌日に来学されました。KAIT工房では、設計者の石上純也様が説明をされました。見学された方からは、「これは課外活動専用なのですか!すばらしい。」との声をいただきました。



## 学生支援本部

### 教務課

### 今後の主な予定

前期授業終了、定期試験期間、追試期間、夏期休業期間、後期ガイダンス及び成績表配付、後期授業開始、科目履修修正期間、履修キャンセル期間  
<前期授業終了>7月29日(土)  
<前期定期試験期間>7月31日(月)～8月4日(木)  
<前期追試期間>9月1日(金)～9月5日(火)\*土曜日・日曜日除く  
<夏期休業期間>8月5日(土)～9月19日(火)  
<後期ガイダンス及び成績表配付>9月20日(水)  
<後期授業開始>9月21日(木)  
<後期科目履修修正期間>9月26日(火)～9月28日(木)  
<履修キャンセル期間>10月19日(水)～10月26日(水)

## 教職教育センター

### 平成30年度公立学校教員採用試験(平成29年度実施)の受験に向けて

○6月28日(水)～6月30日(金) 直前対策講座  
7月の1次試験の合格に向けて、教職教養・論作文に加え、受験時の留意点についても行い、本番に備えます。  
○7月中 各都道府県で採用試験の実施 →1次合格発表(7月下旬～8月上旬)  
○8月5日(土)・6日(日) (2日間) 2次試験対策  
1次試験合格者に対して、2次試験の受験に向けて、模擬授業や面接試験等人物試験の対策を重点的に実施します。

### 平成30年度の受験に向けた対策をスタートします

○7月3日(月) 教員採用試験対策スターティングガイダンス(全学年対象)  
○9月6日(水)～9月15日(金) (8日間) 夏期集中講座の実施(講師:東京アカデミーのスタッフ)  
大手予備校の講師から受験に必要な基礎を徹底的に学び、本格的な受験対策を開始します。  
○9月15日(金) 神奈川県の本年度実施問題による模試  
神奈川県が本年度実施した問題に挑戦し、現段階における各自の実力測定と今後の目標を定めるための参考資料にします。  
○10月2日(月)～12月22日(金) (約3か月間) 「後期対策講座」の実施  
前期同様に添削指導をメインとした受験対策(一般教養・教職教養・専門教科・論作文等)を行います。

## 学生課

### 「父母説明会・個別相談会(本学)」開催について

平成29年度父母説明会・個別相談会は、以下の日程で開催します。本学の支援体制の説明やキャンパスツアー、およびクラス担任との個別相談の時間も設けております。5月に開催した新入生父母説明会・地区別父母説明会に参加できなかった皆様は是非、この機会をご利用いただきご参加ください。  
なお、案内状の発送は8月中旬を予定しています。  
開催日:9月23日(土)  
場所:神奈川工科大学

## キャリア就職課

### 7月から10月までの就活セミナーのお知らせ

3年生、院1年生を対象とした就活セミナーを以下の日程で行います。  
7月5日(水)・6日(木) 5限 SPI演習(6月末実施の受験結果をもとに)  
7月12日(水)・13日(木) 5限 プロが教えるリクルートスーツの選び方及びメイクアップ講座  
<男子学生>メンズプラザAOKIからリクルートスーツの着こなし等  
<女子学生>メイクアップアーティストが実際にメイクを指導  
9月20日(水) 1限 後期就活セミナースタートガイダンス  
9月26日(火)・27日(水) 5限 就活の第一歩「エントリー編」  
10月3日(火)・4日(水) 5限 エントリーシート導入編  
10月10日(火)・11日(水) 5限 エントリーシート対策I  
10月17日(火)・18日(水) 5限 エントリーシート対策II  
10月24日(火)・25日(水) 5限 就活の必須「面接試験編」

## 自律運転知能システム 実証実験を開始

自動車システム開発工学科 井上 秀雄 教授

## 手話学習支援システムを開発

情報メディア学科 西村 広光 教授

# カラー手袋で手や指識別



カラー手袋を着用した学習者がウェブカメラに向かって手話を実演し、正しくできているかを評価する(神奈川工大提供)

### 神奈川工大など

神奈川工科大学の西村広光教授は、システム開発のグレイ・シー・エス(東京都江東区、阿部孝幸社長、03-5646-912)と共同で、手話学習支援システムを開発した。カラー手袋を着用した学習者がウェブカメラに向かって手話を実演し、正しくできているかを評価する。1回の動作を6割以上を認識したシステムが予測した単語候補として上位二つに言われたケースは、8割以上実現。2018年度中の実用化を目指す。

手袋はそれぞれの指の重心位置を追跡する。異なる色を彩することで、手・指の位置に異なる色を彩することで、色の種類から手・指を識別できるように、性能の評価・認識工事も可能になる。

## 正しい動作認識6割

### 手話学習システム開発

「スマートフォンモデル」(日M)などを用いて測定した。サイン・システムは、手話学習者向けに実演の動画をカメラが表情と動きを捉えるアプリ(応用ソフトウェア)「SmartDeaf」(スマートフォン)を実行している。このアプリは学習者が映像を見ながら手話を学べるもの。正しい手や指の動きができていないかを認識し、といった二つのケースがあった。

日刊工業新聞/平成29年5月10日掲載

JST

## 高齢運転者の事故防止へ

# 自律運転知能システム

## 9月めどに実証開始



実証実験に向け抱負を話す井上教授

高齢運転者の自動車事故防止のため、理工学専攻の自律運転知能システムの実証実験が、9月めどに開始される。自律運転知能システムは、道路状況や周囲の車両などを認識し、運転者の意図を予測して、必要に応じてブレーキやアクセルを制御する。このシステムは、高齢運転者の運転支援に役立つと期待されている。

井上教授は「高齢運転者の事故防止は、社会にとって大きな課題である。このシステムの実証実験を通じて、高齢運転者の安全な運転を支援する技術を開発したい」と話している。

「自律運転知能システム」は、道路状況や周囲の車両などを認識し、運転者の意図を予測して、必要に応じてブレーキやアクセルを制御する。このシステムは、高齢運転者の運転支援に役立つと期待されている。

交通毎日新聞/平成29年5月25日掲載  
日本経済新聞/平成29年6月5日掲載  
関連記事: 科学技術振興機構月刊誌「JSTnews」4月号掲載

## 「人工流れ星プロジェクト」供給装置開発の紹介

機械工学科 渡部 武夫 准教授

朝日新聞/平成29年4月16日掲載

## 被災地での活動 大船渡で車いすを修理・整備

KWR修理屋



東海新報/平成29年5月6日掲載

### 車いすを修理・整備 大船渡の気仙苑を訪問

県の大船渡市にボランティア活動の一環として、5月4日(土)に大船渡市を訪れた。大船渡市では、大震災後、多くの高齢者が車いすを利用している。このため、車いすの修理・整備が非常に重要である。今回の活動では、KWR修理屋のスタッフが、大船渡市の気仙苑を訪れ、車いすの修理・整備を行った。

大船渡市では、大震災後、多くの高齢者が車いすを利用している。このため、車いすの修理・整備が非常に重要である。今回の活動では、KWR修理屋のスタッフが、大船渡市の気仙苑を訪れ、車いすの修理・整備を行った。

同窓会市社会福祉協議会の大船渡支部の職員から、大船渡市の現状や、車いすの修理・整備の重要性について話を聞いた。また、大船渡市の気仙苑を訪れ、車いすの修理・整備を行った。今回の活動では、KWR修理屋のスタッフが、大船渡市の気仙苑を訪れ、車いすの修理・整備を行った。

## 大学院生・学部生がTBSテレビ「未来の起源」に出演

- ◆情報工学専攻博士前期課程1年 小澤 辰典さん(平成29年5月14日放送)
- ◆情報メディア学科4年 流 凌太さん(平成29年5月28日放送)
- ◆情報工学専攻博士前期課程2年 鈴木 百合彩さん(平成29年6月11日放送)

## 「VR赤ちゃんReal Baby - Real Family」を開発

情報メディア学科3年 学生チーム

毎日新聞/平成29年5月12日掲載

## 尼崎市「学びと育ち研究所」の主席研究員に就任

栄養生命科学科 岡田 知雄 教授

### 「学びと育ち」所長に大竹氏

尼崎市 生活習慣病予防など研究



記者会見した(右から)稲村市長、岡田教授、大竹教授、中室准教授、中尾教授ら(尼崎市で)

尼崎市は今年度度新設する「学びと育ち研究所」の研究者の顔ぶれを発表した。所長に大竹文雄・大阪大教授(経済学)、主席研究員に3人の学者が就任。5月から市のデータを活用し、学力向上策や生活習慣病予防プログラムの開発を進める。教育政策の研究機関として、旧聖トマス大跡地に整備中の「あまがさき・ひと咲きプラザ」(若王子)内に設置。主席研究員には、

特別支援教育が専門の中尾繁樹・関西国際大教授、生活習慣病の予防などを研究する岡田知雄・神奈川工科大教授、ベス・トセラー「学カ」の経済学 著者の中室牧子・慶応義塾大准教授も配置し、成果は定期的に報告書にまとめるという。市役所で記者会見した大竹教授は「教育現場の取り組みのどちらが効果的なのか、科学的に検証して、教育の実践に生かすことができれば」と述べた。

読売新聞/平成29年4月2日掲載

# 中・高校生対象 ITに関する「夢」を語る「IT夢コン」を今年も開催します！

「夢」を語ることを通した未来を担う若い人材の育成支援

IT夢コンテスト(IT夢コン)は、全国の中学生・高校生・高専生(3年生以下)を対象に、IT(情報技術)で実現できる未来の社会や新たなサービスなどに関する「夢」を語ってもらうコンテストです。本コンテストを通して、中学生・高校生・高専生のITに対する理解や興味を高めるとともに、創造力・問題発見能力・コミュニケーションなどの能力開発の支援を目的とし、2011年から本学主催で開催し、今年で7回目を迎えます。今年は、全国から24校、208作品の応募がありました。

本学がIT夢コンを主催する目的と意義

本学の教育理念は、(1)創造する力、(2)豊かな人間性、(3)コミュニケーション能力、(4)基礎学力の4項目です。その理念の下、本学では在学している学生がこれら4項目の目標を達成できるように、学長以下教職員が協力し、各持ち場で創意工夫し、授業、研究活動、課題活動支援を行っています。

その中で、創造力、コミュニケーション能力の向上や、情報技術に対する理解を深めることを目的とするIT夢コンは、本学がこれまでの教育・研究活動を通じて培ってきた手法や多くのノウハウを活用し、未来の社会を担う人材を育てる中学校、高等学校、高等専門学校と連携、協力する取り組みとして継続しています。実際、本コンテストに参加される先生の方々から、授業、部活動の一環として、本コンテストを利用くださり、教育効果があることをご報告をいただいています。

今年のコンテスト

今年も昨年と同様に夢のテーマを絞りつつ、中高生の社会問題や未来の社会を創造していくという意識を高めることができるように、「ITがもたらす安全・安心、快適・便利な社会」、「運動・健康とIT」、「人とのつながり・ふれあいを育むIT」の3つの選

択テーマと、例えば将来の超高齢化社会の中でのITの活用など、自由な発想を誘起するフリーテーマを設定しています。

最終審査会として、今年は書類選考で絞られた30件の作品のポスター発表による一次審査を行い、それを通過した8件に対して、質疑応答を含めた最終プレゼンテーション(最終審査)によって各賞を決定いたします。ポスター発表では、参加した中高生同志の投票による「ピア賞」も今年も準備しています。最終審査は、審査員として本学教員、学生に加えて、神奈川県教育委員会の先生、情報技術に関する最先端企業の研究員、タレントの蒼あんな・れいなさんを迎え実施します。毎年、活発な質疑応答と終了後の記念撮影など、参加された生徒さん、先生の方々的心里に残るものとなっています。今年も本学で7月29日(土)に開催いたします。皆様のご来場と出場者への応援をお願いいたします。詳細は、<http://kait.jp/yume/>でご確認くださいませ。

(文責:情報工学科教授/宮崎 剛)

神奈川工科大学 主催  
全国の中学生・高校生から、創造性・個性豊かな「IT(情報技術)に関する夢」を募集します。

5月1日(日)から6月5日(土) 受付期間  
最終審査会(ポスター発表) 7月29日(土)

U18 リクメン・リクジョの IT夢コンテスト 2017

応募方法: 1. 応募用紙をダウンロードし、作品を提出する。 2. 作品を審査する。 3. 審査結果を通知する。 4. 最終審査会(ポスター発表)に参加する。 5. 賞状と賞品を授与する。

お問い合わせ先: 事務局 情報工学科 宮崎 剛 TEL: 042-724-2750 FAX: 042-724-2710 E-mail: yume@kait.jp URL: http://kait.jp/yume/

## 名誉教授記授与式を挙行

6月15日、情報学部棟真室において、名誉教授記授与式が執り行われました。小宮一三学長より、以下の4名の方々に名誉教授の称号が授与され、永年に亘り本学の教育・研究の分野において、多大な貢献をされたことに対し感謝の言葉が贈られました。

<名誉教授記 授与者>

- 田辺 誠 名誉教授(元工学部機械工学科教授)
- 川嶋 良章 名誉教授(元工学部応用化学科教授)
- 万代 敏夫 名誉教授(元基礎・教養教育センター教授)
- 池田 広昭 名誉教授(元基礎・教養教育センター教授)



## ホームカミングデーを開催します。

本年度も11月14日(日)(幾徳祭初日)に、ホームカミングデーを開催します。ご家族、ご友人、先輩、後輩など、お誘いあわせのうえ、お越しください。同窓生の皆様との再会を教職員一同、楽しみにお待ちしております。



## 読書コンテスト2017を募集します。

同コンテストは、本を読んで心に響いたことを500字の文章とプレゼンテーション(一次審査通過者のみ)で表現するコンテストです。(主催:図書館および基礎・教養教育センター)  
◆作品応募期間: 7月7日(金)まで ◆公開プレゼンテーション(一次審査通過者のみ) 9月20日(水)5限 ◆審査詳細・応募方法・問合せ先: 神奈川工科大学読書コンテスト事務局(図書館サービス課)まで mail: tosho@kait.jp

## 入学式当日の「父母の会」試行報告

はじめに

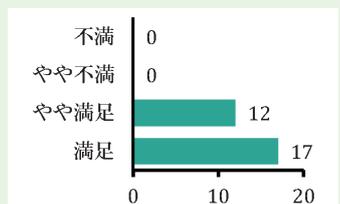
本学は、父母の方々に、大学、学科のこと、大学教育の流れ、就職、大学院進学などの卒業後の進路について、出来るだけ早い時期にお話をできればと考えておりました。最も早い時期は、入学式当日ということですから、今回、父母の会を入学式と同時に、応用化学科のみで試行開催をいたしました。この結果を参考に全学科での開催を検討したいと考えております。

開催日時と内容

フレッシュアズ父母の会は4月4日の入学式の前に10時30分から90分ほどかけて行いました。はじめの40分が、応用化学科学科長そして学生部の担当教員から挨拶や学科、学生生活、就職、大学院進学など説明が行われました。この会にはあらかじめ応用化学科の概要と、学生生活に関する2種類のパンフレットを用意し、これをご覧頂きながら話を進めました。その後は、クラス担任との懇談会で、父母、保護者と教員が顔をあわせての歓談となりました。上級生や大学院生も数名参加しており、大学での様子や大学院の話など、生の声を聞ける良い機会と参加者の皆さんには好評でした。

アンケート

父母の会ではアンケートを実施し、今回の開催について参加者の方からご意見をいただきました。「実際にお話を聞くことが出来て、とても有意義でした。」などのご感想、「子供が意欲を持って学習に取り組めるように」「魅力ある学習を」というご要望もいただきました。以下は当日ご参加の方々の本会に対する満足度をお聞きした結果です。



その後の対応

ご参加の方にはお礼の手紙をお送りするとともに、また当日、ご参加ができなかった父母の方々には、当日の様子を納めたDVDを配布しました。

(応用化学科フレッシュアズ父母の会担当: 高村 岳樹)